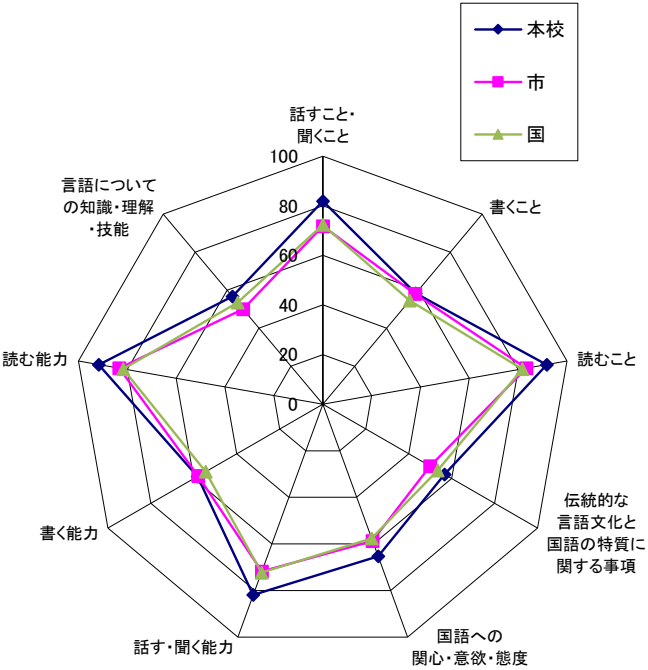


宇都宮市立 西 小学校第6 学年【国語】 分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	81.9	71.8	72.3
	書くこと	58.3	58.0	54.5
	読むこと	91.7	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	56.7	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	65.3	58.7	57.6
	話す・聞く能力	81.9	71.8	72.3
	書く能力	58.3	58.0	54.5
	読む能力	91.7	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	56.7	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

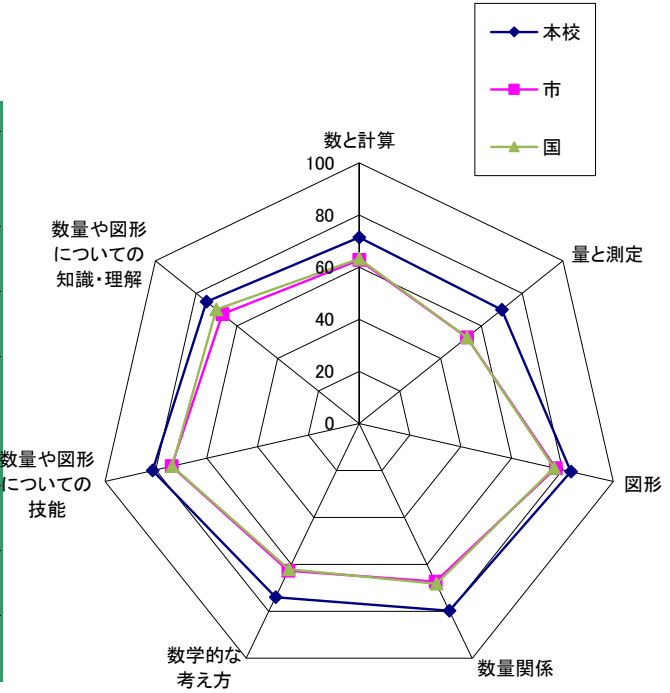
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○「目的に応じて質問を工夫する」の問題の正答率が高い。 ○「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」問題の正答率が高い。	・学級活動の話し合い活動等とおして、話し方・聞き方をさらに学んでいけるよう、支援していく。 ・総合的な学習の時間において、聞いた内容をどのように活用していくのか、自分が必要な情報は何か、誰にどのようなことを聞くのかを明確にしてからインタビューに臨むように指導していく。
書くこと	○「図表やグラフなどを用いた目的を捉える」の問題の正答率が高い。 ○「情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える」の問題の正答率が高い。	・授業や行事等の振り返りで、自分の意見や考えを書く機会を多くもつようにすることで、文章を書くことに慣れ、表現力を伸ばせるようにする。 ・他の教科の授業でも、自分の考えをまとめるときには、目的や意図に応じ、伝えたいことを明確にしていくよう習慣づけていく。
読むこと	○「目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む」の正答率が高い。 ○「目的に応じて文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらか読む」の正答率が高い。	・さまざまな教科の指導において、調べ学習を積極的に取り入れることにより、図書室の本に親しみ、さらに進んで読書をする習慣をつけていく。 ・調べ学習の際には、目的に応じて何のために何を知りたいのか、どのような情報が必要なのかを明確にして読むよう、支援していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」問題の正答率が高い。 ●「文と文との意味のつながりを考えながら接続語を使って内容を分けて書くことに、やや課題が見られる。	・行事等の作文を書く際は、文と文との意味のつながりに気を付けて、内容を分けたり、接続語の役割を正しく捉え、適切に選んで使うようにしたりするよう支援する。 ・新出漢字を繰り返し練習することにとどまらず、自分が書いた文章を見直す学習などの中で、文脈に沿った正しい使い方を習得できるようにする。

宇都宮市立 西 小学校第6 学年【算数】 分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	71.4	62.7	63.2
	量と測定	70.0	52.9	52.9
	図形	83.3	77.3	76.7
	数量関係	79.8	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	74.0	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	81.3	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	75.0	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○2つのグラフの数値の関係から、約何倍になっているかを読み取る問題の正答率が高く、全国平均を上回った。 ○加法と乗法の混合した整数と小数の計算では、全国の平均正答率を大きく上回った。 ○示された減法に関して成り立つ性質を基にし、計算の仕方を解釈して答えを求める問題の正答率が高く、全国平均を上回った。	・計算ドリルや計算ストレッチ等を活用し、確実な計算力を身に着けるための反復練習を重ねていくとともに、数を多面的に見て、より能率的に計算する工夫ができるように指導していく。 ・授業の中で個人やペア、グループでじっくり考える時間を確保していくと共に、解答に至った自分の考えを、分かりやすく記述し、説明できるように指導していく。 ・計算に関して成立する性質をより多く見出すために、基礎的な問題に加え、発展問題にも取り組む機会を多くもつようにする。
量と測定	○資料の特徴や傾向を関連付けて、一人当たりの水の使用量の増減を判断しその理由を記述する問題では、全国の平均正答率を大きく上回り、高い正答率だった。 ○示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述する問題では、無回答が若干見られたものの、全国平均よりも正答率が高かった。	・一つのグラフの読み取りだけでなく、複数の資料の特徴や傾向を関連付けて判断できるよう、授業の中でも身近な話題を取り扱って考える場面を設定していく。 ・図形の構成について、筋道を立てて考えを説明することについては、面積を求める式や数がどの部分の図形を表しているのかを、視覚的にわかりやすく捉えられるように図に書き込んだり、求める図ごとに立式したりして、段階的に説明できるように指導していく。
図形	○長方形を直線で切ってできた図形の中から台形を選ぶ問題について、全国平均を上回り、また、95%以上の高い正答率だった。 ○二つの合同な台形を動かしたり合わせたりして、他の図形を構成する問題では、全国平均を大きく上回った。	・図形の性質や構成要素の理解を更に深められるよう、具体物を操作して図形を作成したり分解したりしながら、図形を認識する感覚が豊かになるような体験的活動を積極的に取り入れていく。
数量関係	○目的に適した、伴って変わる二つの数量を見出す問題では、95%以上の正答率で全国平均を大きく上回った。 ●棒グラフから資料の特徴や傾向を読み取る問題では、正答率90%を超えているが、全国平均を下回った。	・日常生活の具体的な場面を想起する問題を扱い、数量などの情報を提示しなくても、児童自らが変化に伴う二つの数量を見出すことができるよう、類似問題に繰り返し取り組ませていく。 ・グラフに表すことによって、資料の特徴や傾向について捉えやすくなることに気付かせ、内容を正確に読み取れるよう指導していく。

宇都宮市立 西 小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「朝食を毎日食べていますか」の質問に対して、「食べている」と答えた児童が95.8%、「どちらかといえば、食べている」と答えた児童が4.2%であり、肯定的割合が100%だった。他の質問の回答から、いつも同じくらいの時刻に起床している児童が約96%ということが分かり、規則正しい生活ができている様子である。

○「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか」という質問に対して、肯定的割合が100%だった。このことから、自分の頑張りをしっかりと認めることができ、自己肯定感が高いことがわかる。引き続き、学校行事や授業等で、児童が達成感を味わえる機会をつくっていく。

○「学校のきまりを守っていますか」の質問に対して、「当てはまる」と答えた児童が41.7%、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童が58.3%であり、肯定的割合が100%であった。このことから、きまりをしっかりと理解し、守ろうとする態度が定着していることが分かる。今後も「西小よいこのきまり」や道徳の時間等を利用して、規範意識を高めていけるようにする。

●「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」という質問に対して、肯定的割合が74%であり、全国と比べると約7ポイント下回っている。このことから、平日と休日で生活リズムが崩れてしまうところがあると考えられる。地域学校園の取組である「元気っ子生活習慣チェック」等を利用し、自分の生活を振り返ることで、さらによりよい生活ができるように指導していく。

宇都宮市立 西 小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎基本の確実な定着	算数の授業においては、3年生以上の学年でTTや少人数指導による習熟度別学習を取り入れ、学級の実態や個に応じた指導を行っている。漢字の読み書きについては、単元ごとの漢字ミニテストの実施、計算におけるスピードと正確性の向上については、朝の計算ストレッチを定期的に行っている。 また、自分自身の課題意識をもって学習したり、学習習慣を身に付けたりしていけるようにするため、繰り返し実践できる漢字ドリル、計算ドリルを活用している。	国語、算数ともにすべての項目において市・国の平均を上回り、基礎・基本の定着が図られている。授業や家庭学習において漢字スキルや計算ドリルに意欲的に取り組んだり、自主学習に工夫して取り組んだりしてきたことで、基礎がしっかりと身に付いたと考えられる。今後も継続して取り組ませていく。
話合い活動の充実	相手の話に傾聴し、自分の考えと比較しながら意見を聞いたり、自分の考えに根拠を添えながら筋道を立てて伝えたりと、お互いにわかりやすく伝えあう時間を確保している。ペアやグループでの話合いなど、教科や単元に合わせて学習形態を工夫し、少人数の話合いから全体の学びあいへと広めていけるよう努めている。	国語の「話すこと・聞くこと」については、81.9%と全国平均を10ポイント近く上回っている。話を集中して聞き、また内容についてもよく理解している。様々な学習場面において、話合いの場を設けてきた成果と思われる。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」の項目では、約92%と高く全国平均も大きく上回った。引き続き、学び合いによる学習の深まりを意識させながら指導をしていく。

めあて・課題・まとめ・振り返りを意識した授業の展開と、授業規律の構築	授業では、めあての確認、課題の把握、終末では学んだことのまとめと振り返りを行うことで、分かったことを明確にしたり、次への課題をもったりする習慣が身に付くようにしている。また、「西小よい子の学習の約束」を活用し、学習準備、姿勢、話の聞き方・話し方、ノートの取り方等と具体的に示しながら、継続して指導している。	授業でのめあて確認や振り返りについては習慣となり、進んで取り組むことができている。今後も引き続き、発問を明確にし、十分な活動時間を確保し、まとめと振り返りの充実を図る授業を実践していく。 「西小よい子の学習のきまり」を児童に意識させ、学習に向かう姿勢を育てていく。
------------------------------------	---	---

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
基礎基本の確実な習得	一人一人の状況に合わせた、繰り返し学習の徹底と支援	児童一人一人の学習状況に合わせて、TTや習熟度別学習、個に応じた支援を行い、漢字の読み書き、音読、計算などの基礎的な学習内容の定着が図れるよう指導を継続する。また、既習内容の理解度を確認した上で、新しい単元に入るようにし、見通しをもって授業に臨めるようにしていく。 特に漢字の書き問題について、繰り返し取り組むとともに、日頃から既習漢字を使用することを意識していく。
「書く」力の習得	習熟度に応じて「書く」ことへの指導の充実を図る。	日々の授業で自分の考えを書いたり、わかったことをキーワードをつかってまとめたりするなど、自分の言葉で書く活動を位置付けていく。 学年ごとの、「書く」単元に示されているめあてを明確にし、発達段階に応じて書く指導を進めていく。